



認知症の人と一緒になじみの地域で楽しく暮らす 育育広場のとりくみから



うどん県（香川県）綾川町

所属 綾川町地域包括支援センター（直営）

社会福祉士 認知症地域支援推進員 増田 玲子

綾川町の概要

＜自治体の基礎情報＞

H29. 3月末

人口	24,555人	65歳以上人口	8,220人
高齢化率	33.5%	第6期介護保険費	基準額6300円
要介護認定者数	1,786人	要介護認定率	21.7%
日常生活圏域数	1圏域	包括数	直営：1箇所

認知症地域支援推進員数：4名（うち行政：1名、直営：3名）

地域の特徴：綾川町は、香川県のほぼ中央に位置し、総面積109.75平方メートル、人口約25,000人の町です。町の南部には山林が広がり、北部は小山に囲まれた起伏の多い丘陵地で形成されています。町名の由来ともなった清流綾川は、南東部の山中に源を発し、水と緑の豊かな美しい自然が広がっています。



藤井 賢町長

全国最高齢首長（88歳）



町木：梅

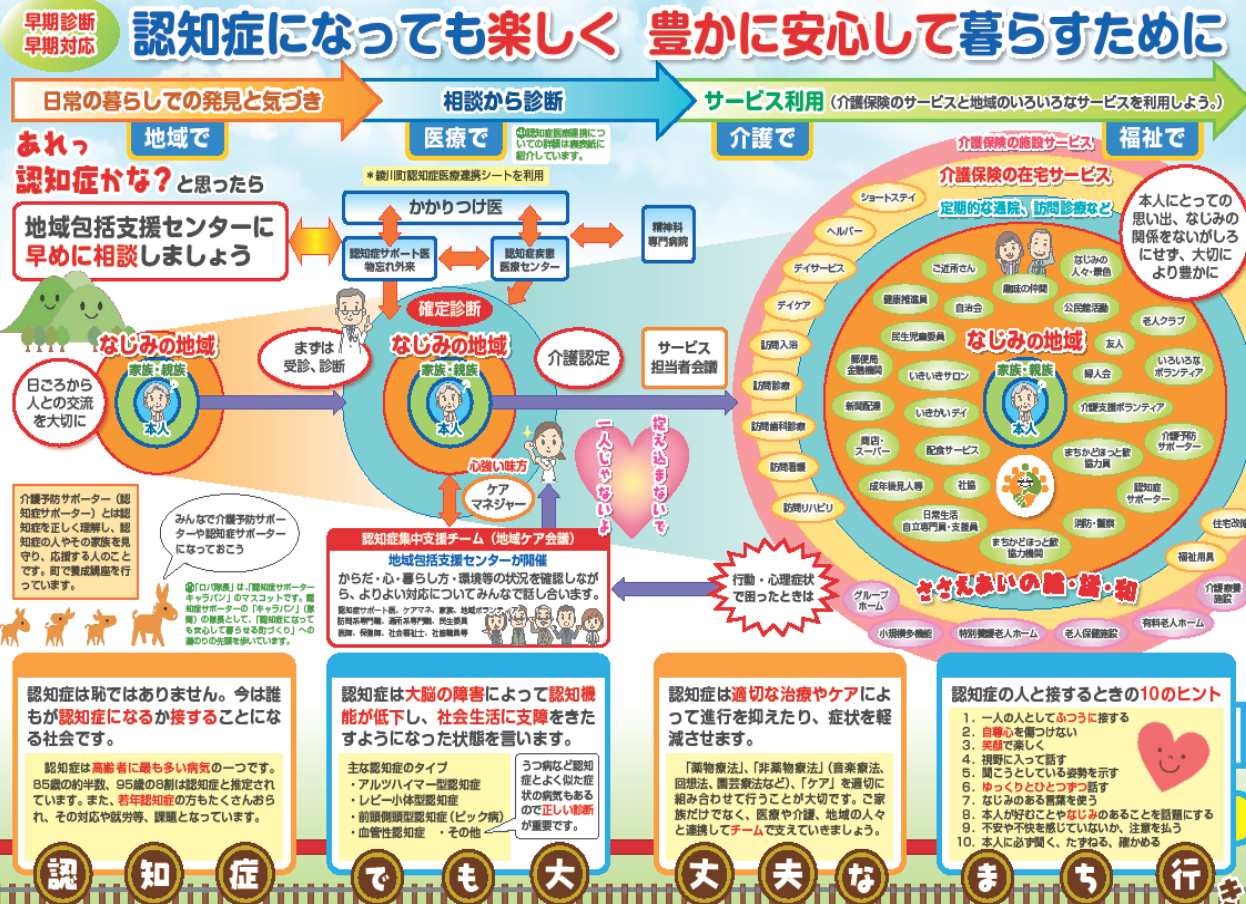
菅原道真公ゆかりの滝宮天満宮の飛び梅

綾川町における認知症施策の全体像

- 将来像：**いきいきと 笑顔あふれる 定住のまち あやがわ**（第1次総合振興計画）
- 基本理念：**安らぎを感じ、いきいきと暮らすまち**（綾川町高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画）

綾川町認知症ケアパス概念図

施策・事業/計画等の名称



- ① 認知症ケアパスの作成・普及
→平成27年9月全戸配布
- ② 認知症予防と認知症相談の実施
→平成27年1月開始
- ③ 認知症初期集中支援チームの設置
→平成29年度4月設置
- ④ 認知症地域支援推進員の配置
→4名
- ⑤ 認知症サポーターの養成
→約1650名（製薬会社、スーパー、中学校など）
（介護予防サポーター：411名活動率約50%）
- ⑥ 地域での認知症地域支援の推進
→脳の元気教室、介護予防サポーター活動、まちかどほっと歓事業
- ⑦ 認知症高齢者の認知症ケアの質の向上
→研修会、認知症症例検討会：3ヶ月に1度年4回開催（地区医師会と共同）
- ⑧ 認知症カフェ事業の実施検討
→いきいきサロン、いきがいデイサービス、本人ミーティングなどへの参加促進

その人の人生の集大成の時期、一人ひとりのストーリーと なじみを大切にしながら、本人・家族・地域と専門職がともに



平成29年4月
からスタート!

綾川町は、認知症になっても楽しく豊かに安心して暮らせる町をめざしています。
ほっと歓伝え隊：ご本人とご家族：志度谷利幸さん、久美さん

早期診断・早期対応・早期前向きへ

認知症初期集中支援事業が始まります。

認知症地域支援推進員として 重点的に取り組んでいること①

その1：本人の経過にそった支援の強化（特に初期段階）

1. MCIの初期把握

認知症の理解、気づきのスコア化→初期把握シートを医師会と共同で作成

2. 初期段階の方の受け皿の拡大

脳の元気教室の開始、**活躍の場**・サロンの立ち上げサポート、生きがいデイへの参加を後押し、家族の会立ち上げ、家族会報提供など

3. 個別のケースへの丁寧な対応

本人ミーティング、本人・家族・ケアマネへの寄り添い、介護保険サービスと地域の連携、地域ケア個別会議の開催・参加、多職種症例検討会の定期開催(医師会と共同)

4. 認知症サポーター養成講座の開催

郵便局、中学校、スーパー、製薬会社など

認知症地域支援推進員として 重点的に取り組んでいること②

その2：人を育て、活動を支え、それらをつなぐしくみをつくる



住民力

- ・ まなびあい講座
- ・ 介護予防サポーター活動 **420名**

活動支援

- ・ 介護支援ボランティア **302名**
- ・ ポイント制の拡大



H29.6月末現在の数

体制作り

- ・ まちかどほっと歓事業協力員 **278名**
- ・ 徘徊高齢者ほっと歓メール配信 **326名**



人、活動、事業をつなげながら発展させていく→活きたケアパスを育てる

綾川町の支えあいの仕組みづくりの経緯

認知症地域支援に関する町の課題

○認知症に関する理解不足

○閉鎖的

○関係ない…という意識

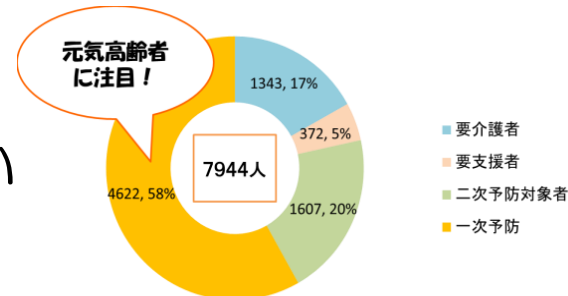
- ・ 予防には熱心だが、自分と認知症の人とを線引きしてしまう・・・

- ・ 介護保険利用すると違う人という見方

○介護保険を利用すると、つながりがきれる

○サービスを利用しているても、本人がいい姿ではない

認知症に関する研修会、講演会でのアンケートで「ああはなりたくない。認知症は怖い・・・」という声が多く見られた。



綾川町高齢者の状況H.27.3.31現在

○制度・事業を進めていく中で住民の関心を高め、関わってほしい

○高齢化というけれど、元気な人もいる。この人たちが理解を高めてくれれば素晴らしい力になる!

綾川町で暮らす様々な人たちを大切に、一人ひとりの意識、力を引き出す、活かす

これからは**住民力・地域力**が大切。**自分たちが暮らす地域を安心できる地域**にしていこう。

支えあいの仕組みづくり

介護予防サポーターの養成及び活動支援

はじめる

介護支援ボランティア制度の導入

広げる

高齢者等声かけ見守り

「綾川町まちかどほっと歓事業」の展開

体制作い

わが町の認知症ケアパスとその活用

考え、動く

認知症施策における医師会との取り組み

町中に支えあいの地域づくりを主体的に考え動く人がたくさんいる。

介護予防サポーター養成

まなびあい講座の企画へ

- 住民に介護や介護予防などの知識を持ってもらおう。
- それよりも、顔を合わす回数も多くしたほうが負担も少なく、関係性も深まるのではないか。
- 月1回、8回コースで開始（平成18年6月～）
- 6回以上受講した方に町長よりサポーターとして委嘱状を渡すこととした。
- ねらいは

☆介護予防の意義や知識の普及の協力

☆ひとり暮らしの高齢者への声かけ・見守り

☆認知症高齢者やその家族への声かけ・見守り



まなびあい講座 プログラム



期待されています
元気をもらいあって **地域力**
住民力の発揮を

27年度
綾川町
介護予防サポーター養成講座
まなびあい講座

申込みはお電話で
×切：6月12日（金）

この講座は、介護予防サポーター養成をすることを目的とし、いきいきとえがおで綾川町に定住していくために、高齢になっての生き方・過ごし方を学び、ご自身や家族の介護予防、さらには地域での支えあいについて学ぶ講座です。

場所：綾川町総合保健施設えがお 2階



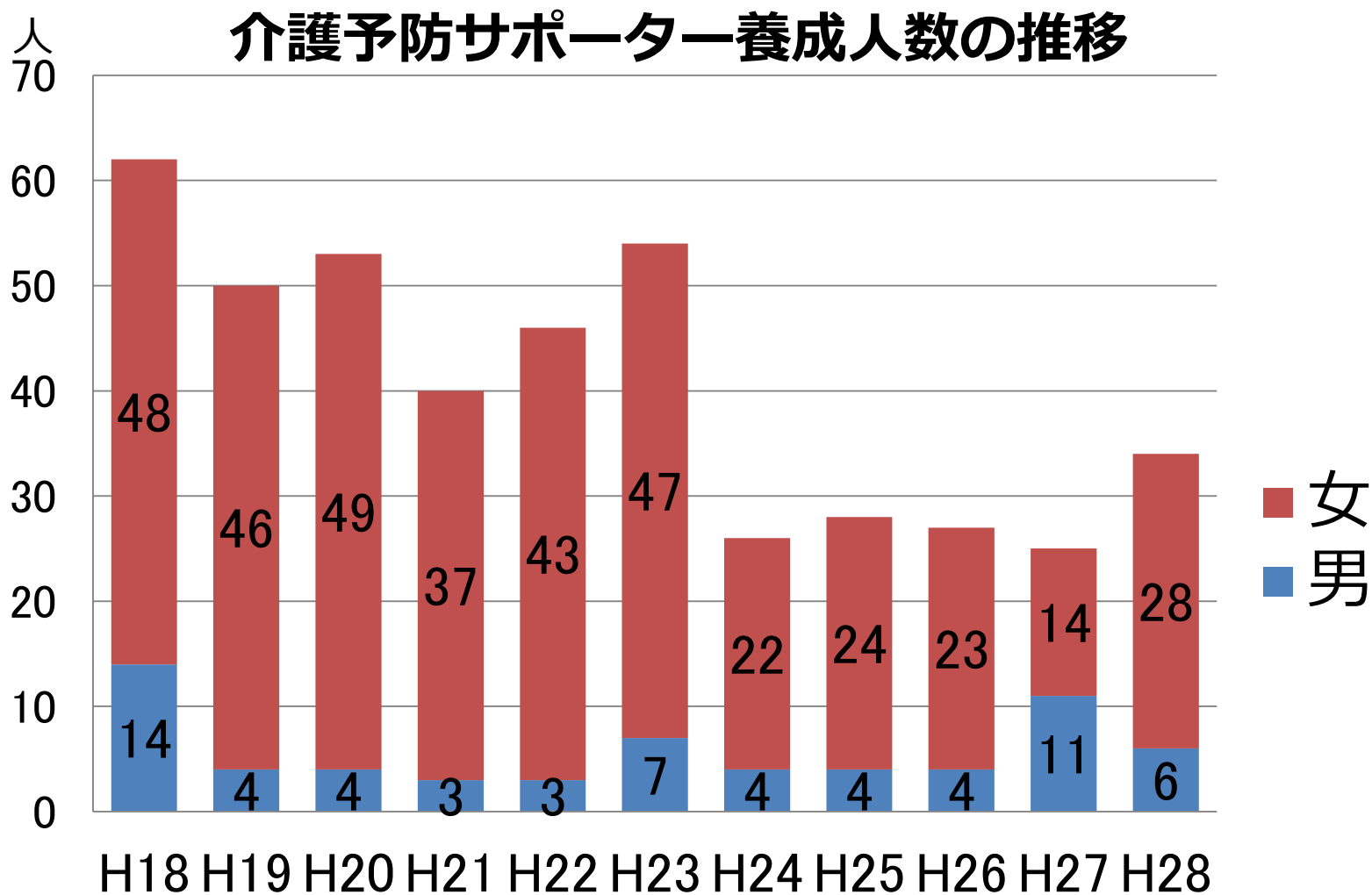
高齢になっても、認知症になっても
だいじょうぶなまちづくり

申し込み・問い合わせ先
綾川町地域包括支援センター
(えがお内)

とき	テーマと講師	内容
7月2日(木) 13:30~15:30	開講式 みんなで支える介護保険制度 陶病院 院長 大原昌樹 先生	介護保険のしくみや介護が必要になる原因や予防を学びます。
8月3日(月) 9:30~11:30	介護予防実践 その1 高齢者の食事と栄養・健口生活 町管理栄養士・歯科衛生士 青木まゆみ先生	おいしく食べるため工夫を管理栄養士から、かむ・飲む・食べる機能の秘密を歯科衛生士からお聞きします。
9月16日(水) 14:00~15:30	高齢者のこころとからだ～医師からのメッセージ～ 認知症サポート医 浜田健水 先生	認知症サポート医師の先生から、認知症を医学的にわかりやすく解説します。
10月6日(火) 9:30~11:30	介護予防実践 その2 簡単介護予防体操と介護実習 健康運動指導士 広瀬 豊先生	今の筋力を保つために、簡単にできる体操を実際に体験してみます。
11月 10:30~15:30	 施設見学 	県内の高齢者を地域で支える施設におじゃまして、活動の様子をお聞きします。
12月4日(金) 13:30~15:30	認知症になってもだいじょうぶ！ ～認知症家族の会からのメッセージ～ 認知症家族の会 夕映えの会 藤田浩子先生	15年間の活動から、認知症の人・介護する家族、両者に送る温かなメッセージです。
1月25日(月) 10:00~12:00	高齢になってもだいじょうぶ！ シルバー生活を充実生活に！ 四国学院大学 島影俊英先生	高齢者とよりよい生活を送るために、言葉のコミュニケーションだけでなく感情の交流が大切です。明日から役に立ちます。
2月	開講式 まちづくりのために～介護サポート活動のご案内 綾川町地域包括支援センター	3人にひとりが高齢者です。...これからの介護サポーター活動や自分ひとりでもできる活動を話しあってみよう。

お願い：全コース続けて参加されることをお願いしています。
受講後は綾川町介護予防サポーターに登録されます。

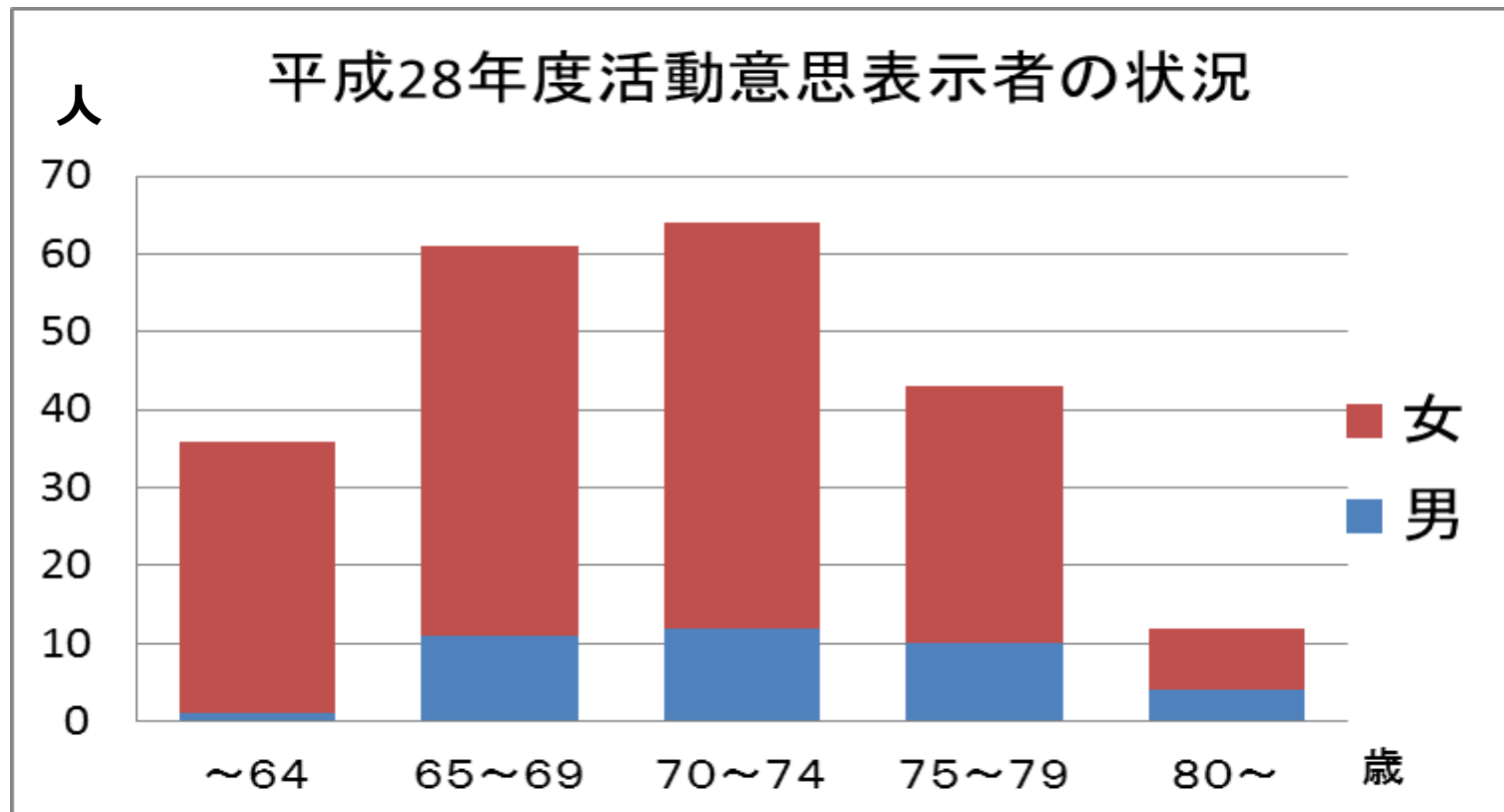
11年間で介護予防サポーターが約420名



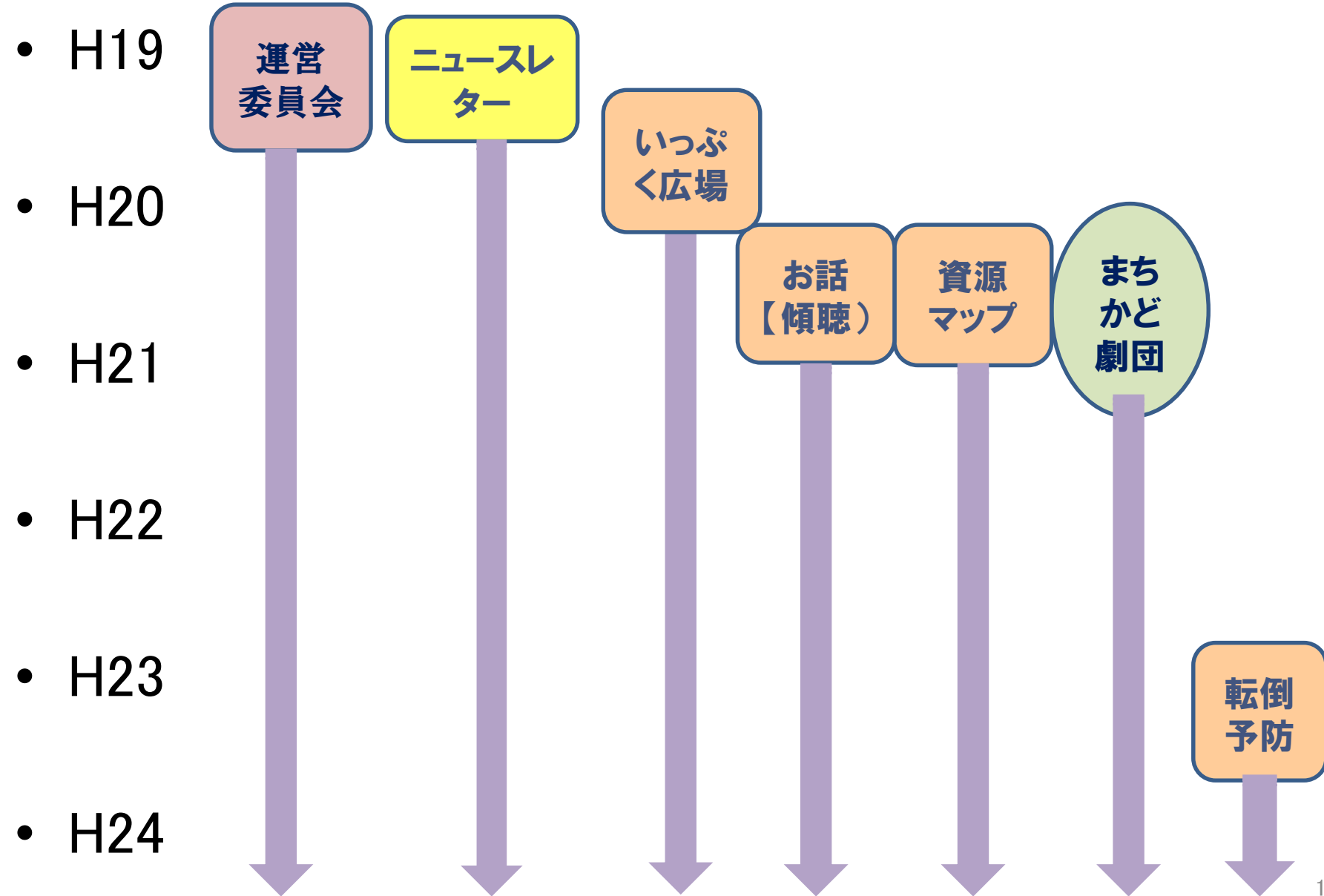
毎年、年度当初に活動希望調査を実施 (削除者除く351名)

見守り活動だけでもOK

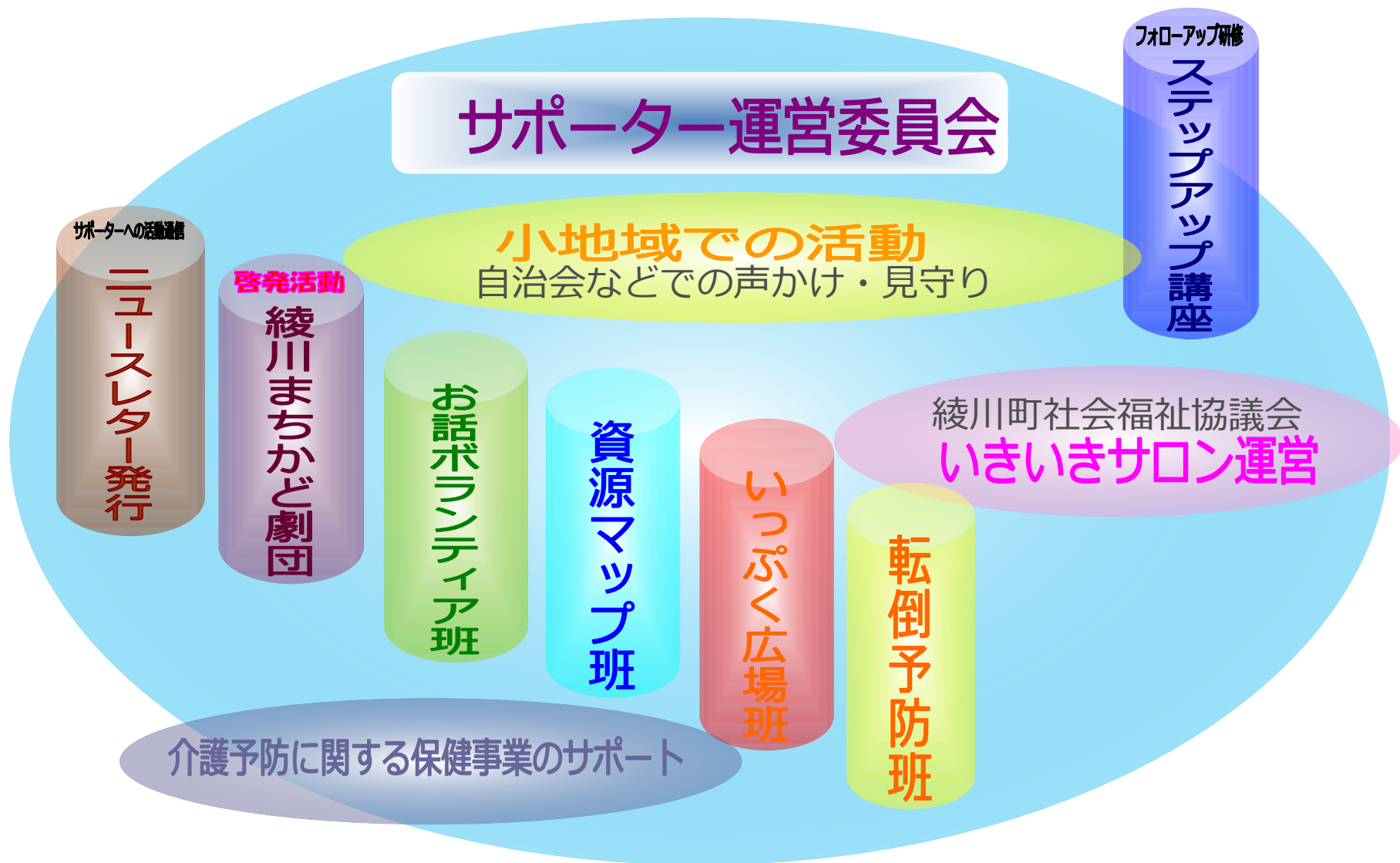
H28年度の活動希望者(見守り活動含む)は216名
(約61.5%)



介護予防サポーターの活動経過



介護予防サポーター活動の現状



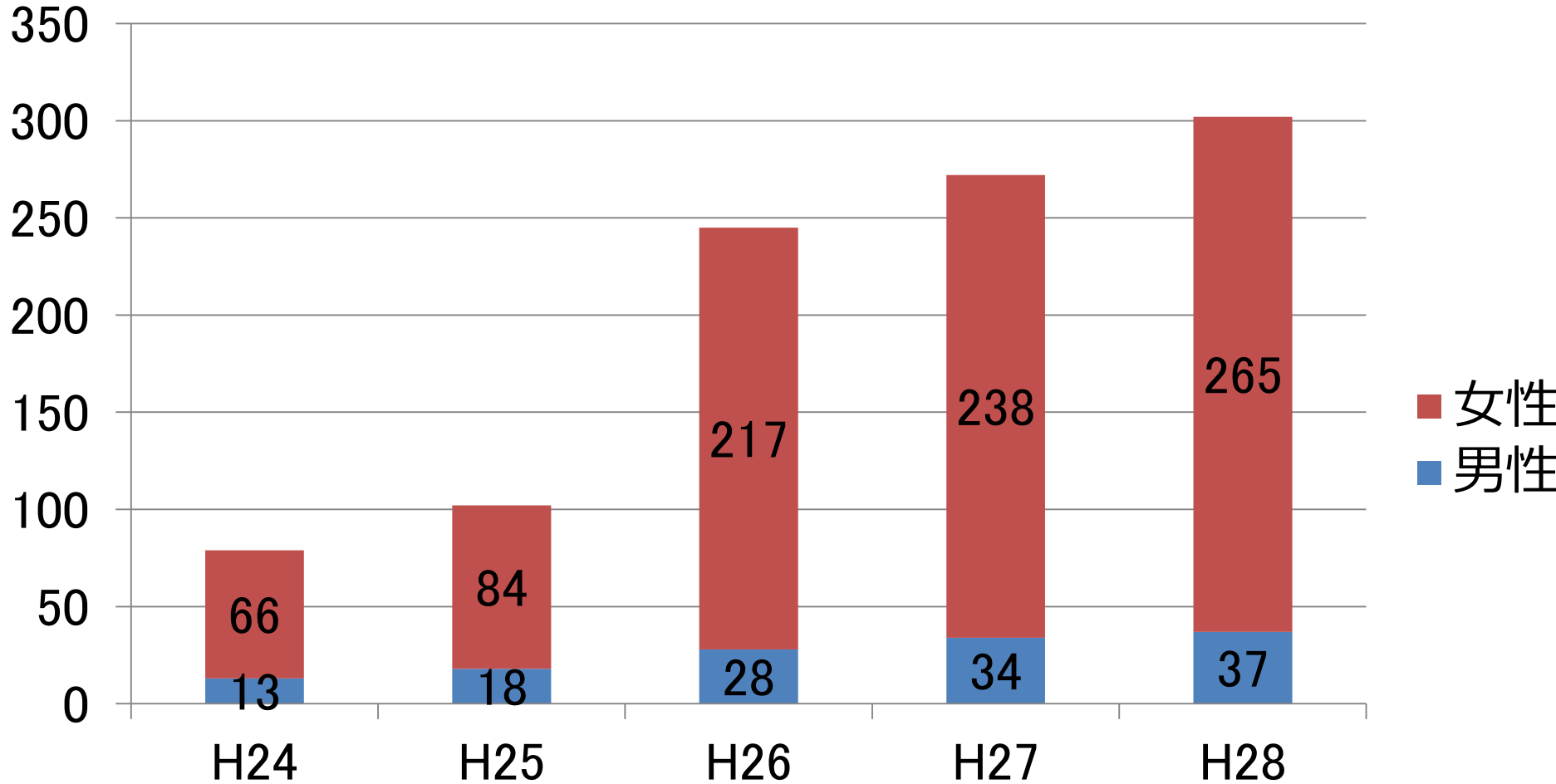
平成24年より介護支援ボランティア制度開始 活動終了後にスタンプ「ささえあい手帳」



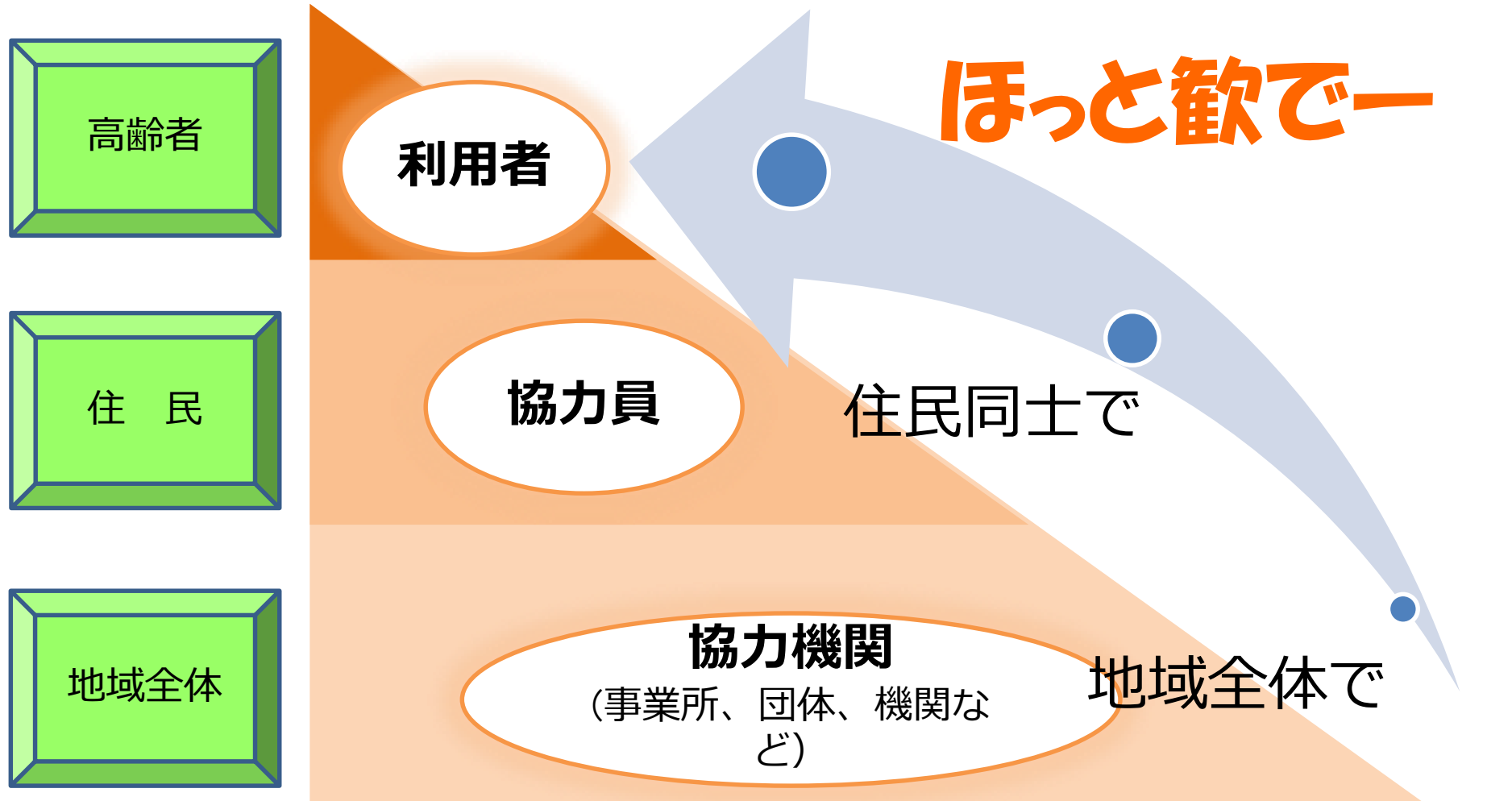
1時間の活動で1スタンプ
スタンプ数に応じて現金還元 一人年150スタンプ
=1万5千円まで



介護支援ボランティア登録数の推移（人）



高齢者声かけ・見守り事業イメージ図



協力機関：高齢者の支援にかかわる機関、団体及び事業所等で、まちかどほっと歓事業の趣旨に賛同したものをいう。協力機関は、その構成する者にまちかどほっと歓事業の趣旨等を周知し、声かけ・見守りを行うものとする。声かけ・見守りにおいて何らかの異変や相談があった場合は、地域包括支援センター、健康福祉課又は社協のいずれかに連絡することとする。



まちかどほっと歓事業ネットワーク図

見守り希望者

綾川町民で65歳以上の一人暮らし、または65歳以上の者のみで構成される世帯の方でまちかどほっと歓事業の声かけ・見守り活動について承認した者



高齢者



定期的なお話し相手は介護支援ボランティア制度でマッチング

協力員



町に協力員として登録し地域の高齢者に対し、声かけ・見守りを行っている者

協力員

278名

相談・連携・支援

担当民生委員

担当ケアマネジャー等



社協担当制

社会福祉協議会

連携

地域ケア会議

地域包括支援センター

連携

困難事例は必要に応じて専門職、ボランティア、家族、当事者、行政が集まり地域ケア会議を開催。

役場健康福祉課等

連携

日ごろの連携に加えて必要に応じて地域ケア会議に出席。

協力団体

町内に所在する公共的な活動をする団体で、まちかどほっと歓事業の趣旨に賛同した団体

- 老人クラブ連合会
- 婦人会
- 自治会
- JA女性部
- 介護予防サポ
- いきいきサロン
- 各種ボランティア

各団体での声かけ・見守り及び協力員登録への協力

62機関

協力事業所

町内で事業活動を行う事業者で、まちかどほっと歓事業の趣旨に賛同した事業所

- 保険関係事業所
- 郵便局
- 商店
- 民間事業所等

異変などがあれば社協、包括へ連絡

協力機関

高齢者の支援にかかわる公共的な機関等で、まちかどほっと歓事業の趣旨に賛同した機関

警察

消防

地区医師会

民生児童委員協議会

高齢者の声かけ見守り活動(綾川町まちかどほっと歓事業)との連動をめざした地域づくりへ

綾川町まちかどほっと歓事業とは

声かけ・見守りが必要な高齢者のために、平成25年度から取り組んでいる事業です。地域のボランティアが協力員となり、民生委員や様々な協力機関と共に声かけや見守り、居場所づくりを行うことで孤立や閉じこもりをなくし、安心して暮らし続けられることを目指した事業です。

ほっと…安心感
放っとかんで~!!
あたたかい

地域で支えあうことが元氣や喜びにつながります



HOT
身近なまちかどで

放っとかれない
体づくりも
きっかけに…

見守る機会
対話の場

繋がり輪

チラシ

『ほっとか連とこ100歳体操』 と命名して開始

綾川町地域介護予防推進事業

仲間であらゆる人へ声をかけてみませんか

周囲の皆に、または時代の流れに、放っとかれないための元気な体をつくっていきましょう!

ほっとか連とこ100歳体操

① どんな体操ですか?

軽重のおもりに合わせた筋力づくりの運動です。100歳がらむまでその人に合ったおもりを手首や足首につけて運動を行うことで筋力とバランス能力が高まります。イスに坐るなどして無理なく行なうので、足腰の弱った方でも安全にできます。なつかしい曲に合わせてゆっくり体を動かします。

② 高齢者でも大丈夫でしょうか?

加齢によると思われる筋力や姿勢は、筋力低下に陥保していることがわかりました。どの年齢においても筋力や筋力は回復させることができると考えられます。筋力やバランスがアップすることで転倒を防ぐことができます。また、軽度の運動でも続けることで認知症予防になることが明らかになりました。まずは無理せず、チャレンジしてみましょう。

③ どのくらい行なうのですか?

まずは簡単な3つの動作から行ないます。運動習慣を身に付けてもらうまで30分以内です。毎日ではなく週末、できれば週に1回は行なうことが理想です。まずは3ヶ月くらい続けてみると効果が実感できると思います。

④ 「やってみよう」となればどうしたらいいですか?

1人で続けることは大変ですが、数人の仲間だと続けやすくなります。そこで、週に1回自治会や友人など町内に住所を有する65歳以上の高齢者の方を5人以上含めた仲間が集まり、場所が確保できる場所であれば取り組みのお手伝いをします。是非ご連絡ください。

*イスとCDラジカセを準備していただければ、お持ち等はこちらから貸し出します。
*場所は集会所でも公民館でもよいし、店舗や倉庫など空きスペースでも大丈夫です。

みんなでめざそう
筋力アップと認知症予防!

申し込み・問い合わせ先
TEL. 876-1002
地域包括支援センター

ほっとか連とこ100歳体操



繋がることで
地域力もUP

地域の集会所が
「通いの場」に



リハビリ専門職との協働も効果的に

ほっとか連とこ100歳体操実施場所

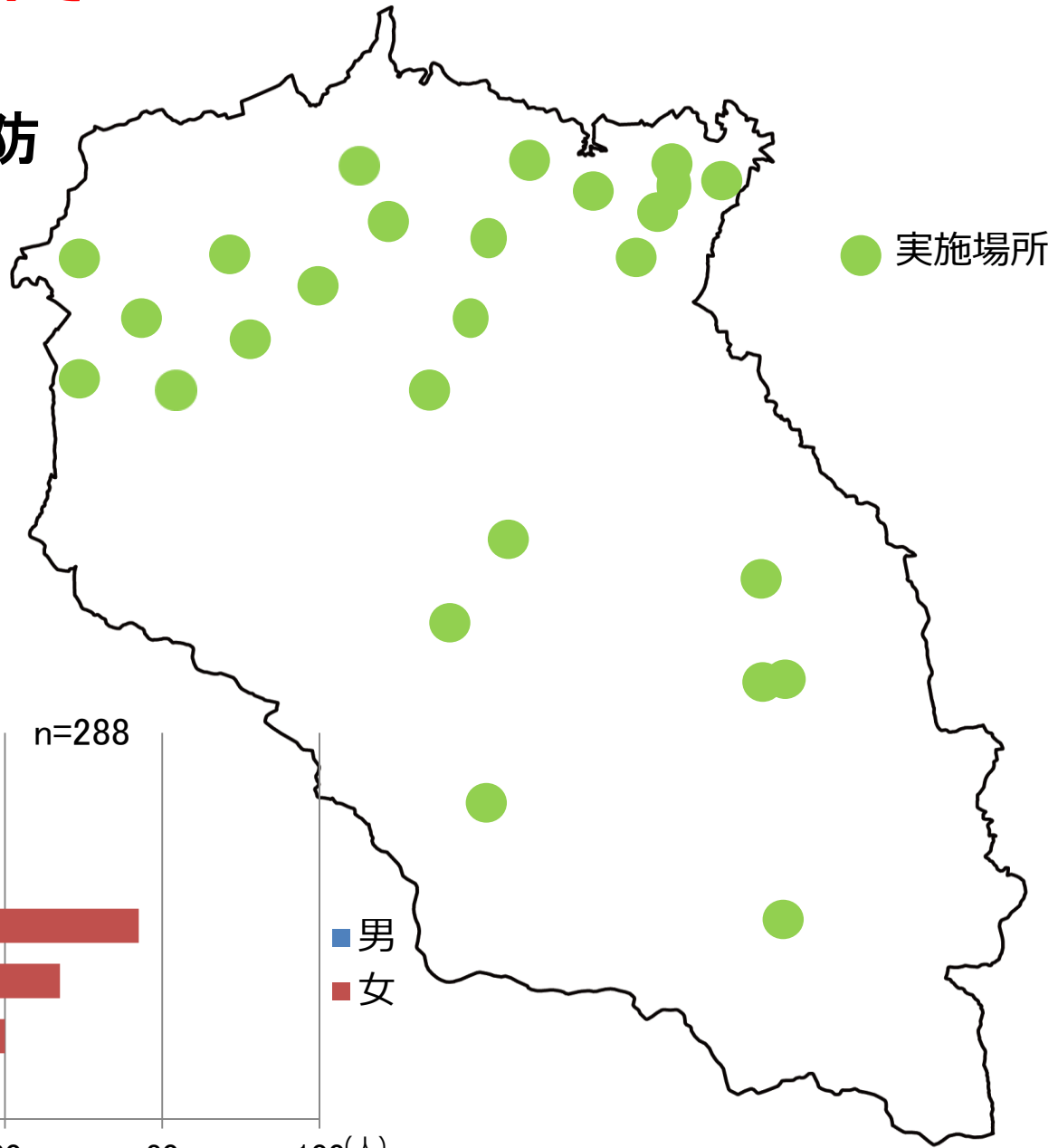
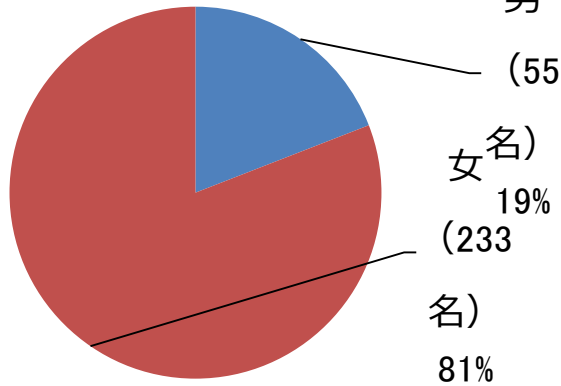
(H29.3現在) 27ヶ所で

開始

そのうち18ヶ所は介護予防 サポーターが立ち上げを

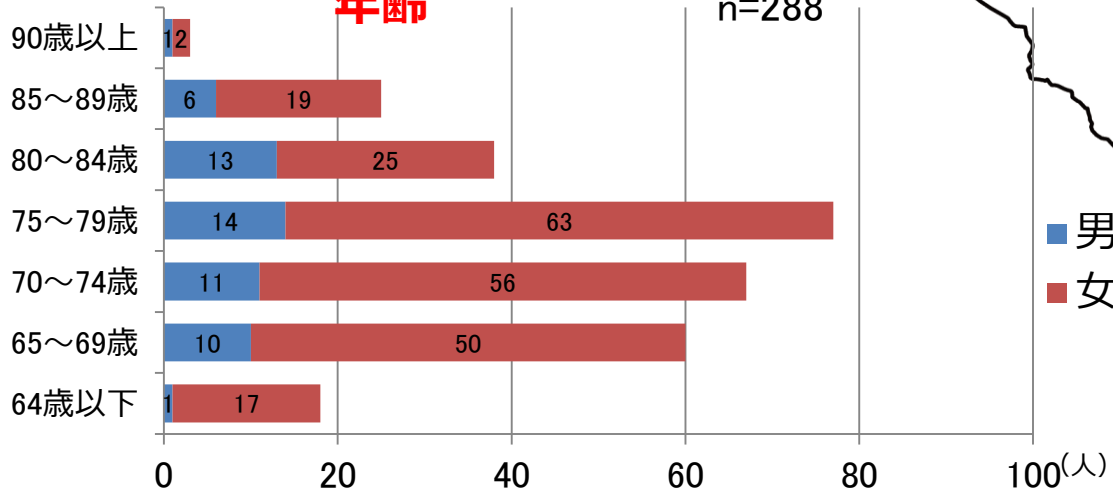
性別

n=288

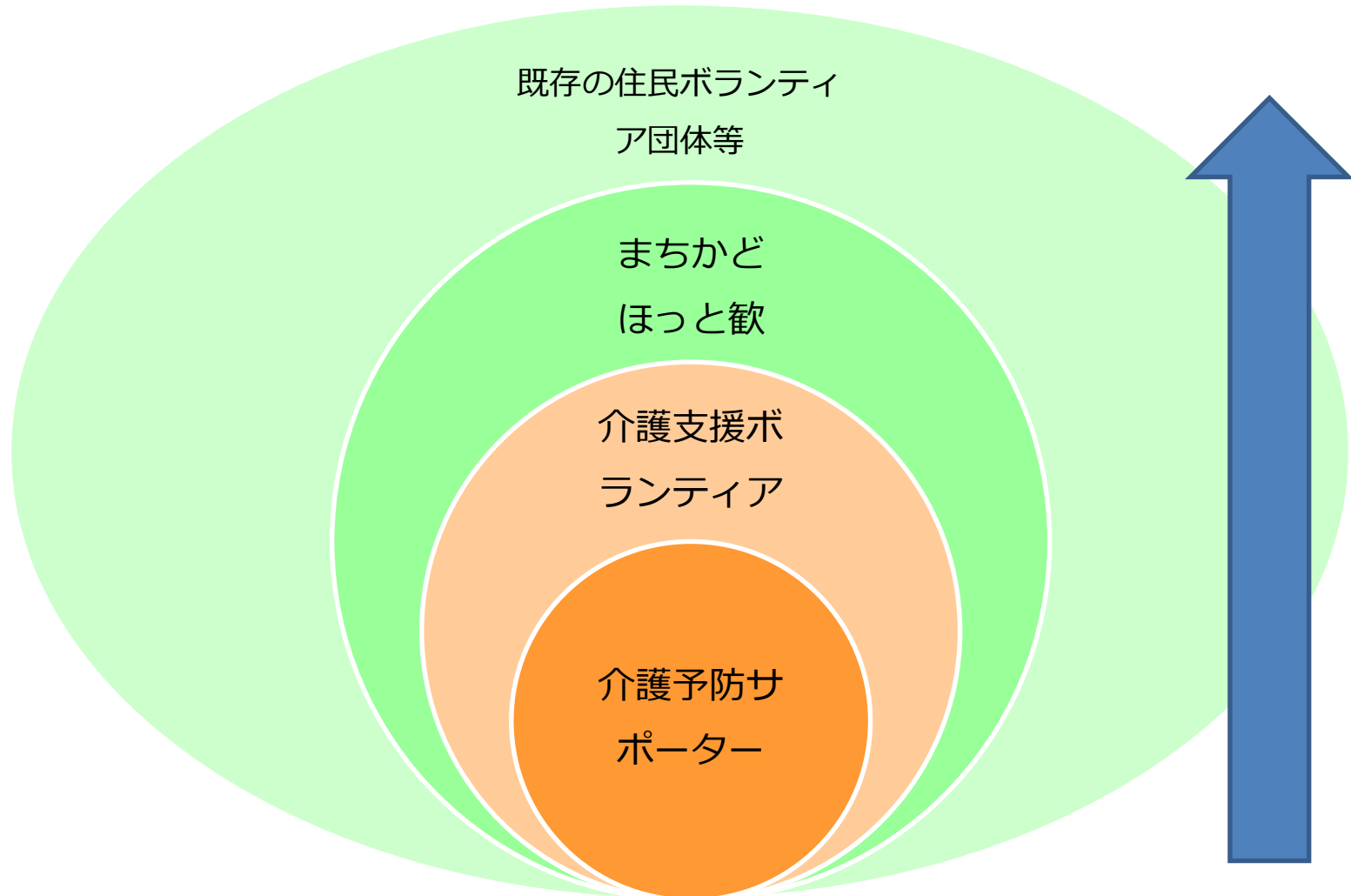


年齢

n=288



サポーターを核とする 住民力・地域力の充実に向けた流れ



推進員活動を通じたつながりの拡大

サポーターを核としたネットワークづくりの鼓動



M団地：ほっとか連とこ100歳体操やいきいきサロン夢サロンも活発



G団地：ほっとか連とこ100歳体操がきっかけで何年ぶりかで校区の盆踊りに参加。地域のつながりが戻ってきた！



話ができてうれし
いわー。

お話ボランティア：入所しても顔見に来るデー。



M団地：300軒中47名の見守り協力員がいる。

顔の見える関係の中で

一人ぼっちをゼロに
認知症の初期の気づき

まちかどほっと歓事業
まちかど：それぞれの地域で
ほっと：あたたかい
歓：生きがい、喜び



←自分でチェック！地区医師会と共同で作成し、町内の医療機関においています。

脳の元気教室のサポーターもすぐに集まり、そのなじみから本人ミーティングへ



本人が安心して語り、伝える本人ミーティング



地区医師会の協力で多職種事例検討会を年4回実施。2月にはロールプレイも。「本人が安心してその人らしく暮らすための事例検討を！」という目標も明らかになってきた。

なじみの人たちが、なじみの地域で思いを持って動き始め

**認知症の人にもそうでない人にも
誰にもやさしい地域づくり**
—Sさんの暮らす南かざし団地での取り組み—



南かざし団地のこれまでのあゆみ

- 団地内の介護予防サポーターが集まる
- いきいきサロン
- まちかどほっと歓事業見守り担当制
- ほっとか連とこ100歳体操
- その他クラブ活動



- 認知症になってもならなくてもその人らしく
- 自分から進んで行ける場を作ろう

Sさんが暮らす地域はこんな地域

- Sさんと包括をつないだMさんと民生委員さん

H20年から介護予防サポーターとして活躍。ほっとか連事業ではF民生委員と協力して団地独自に見守りマッチングを実現



F民生委員さん

Mさん

すぐそばでその人を知っている人としてスマートに見守りたい。

認知症のことで悩んでいるのなら、いっぺん包括に行ってみよう。

ほっとか連とこ100歳体操やいきいきサロン夢サロンも活発



毎朝のラジオ体操

300軒中47名の見守り協力員がいる。



団地内のサポーターの集まり

参加申込書と声かけ見守り組み合わせ票

まちかどほっと歓プロジェクトチーム南かざし団地 参加申込書

* 記入について
 ①参加区分は○で囲んでください。
 ②その他には、見守り・声かけのほかに・したいこと・してもらいたいこと・できること等のボランティア内容をお書きください。

申込者	参加区分
氏名 (自治会 区 班)	・見守り・声かけ ・見守られ・声かけられ ・その他 ()
氏名 (自治会 区 班)	・見守り・声かけ ・見守られ・声かけられ ・その他 ()
氏名 (自治会 区 班)	・見守り・声かけ ・見守られ・声かけられ ・その他 ()

*お願い
 ①身近に見守り・声かけをしたい人がいる場合は、相手の方と相談の上、そ
 の方のお名前をお書きください。ただし、意思の確認が出来ない場合は記入不
 要です。
 自治会 区 班 ()
 ②見守り・声かけられたい方は、ご自分の希望をお書きくださ
 い。
 自治会 区 班 ()

まちかどほっと歓プロジェクトチーム 声かけ・見守り組み合わせ票

区 班	様が見守る方は
	様です。
区 班	と一緒にする方は
	様です。

まちかどほっと歓プロジェクトチーム 声かけ・見守り組み合わせ票

区 班	様を見守ってくださる方は
	様です。

今のその人の想いを知っている
近くの人として寄り添いたい

Sさんが包括にやってきた。

- 68歳、男性、夫婦二人暮らし。アルツハイマー型認知症
- 診断を受けて3年間、ご夫妻で病気に向き合ってきた。当初から認知症のことは夫婦ともに周りの人に隠すことなく伝えてきているが、だんだん本人の行き場が狭まり、このままではいけないと思い、妻が近所のMさんに「どこかええ病院あるかな？」と相談。

＜そのときのSさんの暮らしの様子＞

内装関係の自営業を営んでいたが、続けていけなくなってきた。

外出の機会が減り、妻と一緒に通院・買い物に出かけるくらい。

愛犬むさしとの散歩が唯一の楽しみ

妻に仕事仲間との過去のトラブルを繰り返し訴え、妄想が膨らむことが多くなってきた。

- 近所のMさんに「包括に行きまい。」といわれて来た。



- これから、いろいろな情報提供をします。地域の中でできることを一緒に考え、一緒にやっていきましょう。そのためにいろいろなことをお勧めしますが、いいですか？



- 包括に来て、「目の前が開けた気がした」と。
- これからはどんどん出かけていきます。
- 出合いの持つ力を実感。もっと出合いを。

地域の人々と一緒に本人、家族(妻)の思いを形に

家でじっとしているより何か役に立ちたい。この思いを大切に。

- いきいきサロン、ラジオ体操、100歳体操
- 家族の会の講演会やイベント
- 脳の元気教室
- 男の料理教室
- 本人ミーティング
- 陶芸教室
- 卓球
- 育育広場！



Sさんの暮らしと団地仲間

生きて生きる:生活の中身を豊かに。日常的な活躍の場を作ろう。

安心して
暮らせたい、

家族と

団地内での男の料理教室

愛犬むさしと



楽しく過ご
せたい、



普通に普段の
日常がある。

本人・家族
地域住民

育育広場ができるまで

地域包括支
援センター

生きがい
を持てる
場を作り
たい

子育て支援施設
の空きスペース
の利用をして欲
しい

子育て支援施設
の園庭にも雑草
が生え、荒れて
いる



手作りおも
ちゃや特技を
活かしたペン
キ塗りをして
欲しい



ここなら誰も
が気楽に通つ
てこられる場
になる

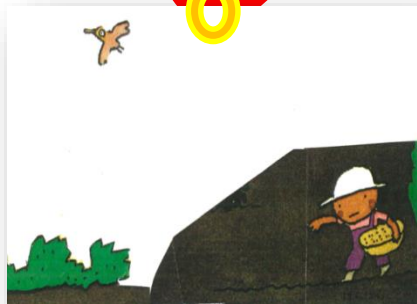
子育て支援
課



健康福祉課



Sさんデザインのネームプレート。



命名：育育広場

作成者コメント：
広がるように下
の文字幅を長く
しました。



移動式看板
も完成！

★子育て支援施設きらり育育広場とは

これは南かざし団地をモデルとして認知症になっても**住み慣れた地域で楽しくいきがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場作り**と世代間交流のあり方を模索することを目的としたもので、認知症の人でも認知症でない人も老若男女を問わず参加できる。なお、65歳以上の方はこの活動に対して**介護支援ボランティア制度〔ポイント制〕**が適応される。

牛乳パックで園児のための腰掛作り開始



子育て施設のドアのペンキ塗り



子育て施設のドアのペンキ塗り



自分の力を出せる場は面白い

パーティーションプレカット(Sさん工房にて)



プレカット(Sさん工房にて)



パーティーション組み立て





2017/06/27 10:17

チーム育育



楽しく続けられるといいですね



これから積み木やドミノなど製作していく予定です。

Sさんの週間スケジュールの変化

これまでの生活

月	火	水	木	金	土	日
	通院					
妻仕事				妻仕事	妻仕事	妻仕事
ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ
夜中に妻を起こして仕事上のトラブルのことなどを言い募る。						



今の生活

月	火	水	木	金	土	日
ラジオ体操 100歳体 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操						
妻仕事	育育広場	陶芸	脳元気	いきいき サロン	陶芸	妻仕事
卓球			卓球			
ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	ムサシ

おもちゃなど木材の材料カットは予めSさん宅の工房で男性陣が集まり行う。時々男の料理教室など行事に参加。

他の地域でもその地区ならではの芽生えが



社協の子ども食堂を作りたいという願い
サポーター仲間・友人・
社協・包括で話し合いました。

つくしんぼ 誕生

なじみの場所でなじみの人が
郷土料理を一緒に作って
子どもたちとも交流できる場を作ろう。



世代間交流の場つくしんぼ

郷土料理の会食、作品作り、体操など





お茶をどうぞ

ありがとうでー



つくしんぼのようにつながりあって
楽しく元気に



参考：個別事例対応における推進員活動の流れ①

Mさん 一人暮らし 60才代 女性 若年性アルツハイマー 要介護2 元特養職員

「息子がお金を盗った！！」「死ねというのか！」（本人）

- ・息子さん（県外）、兄（近所）、友人（サポーター）に朝夕問わず何十回と電話攻撃。駐在所、役場に「お金を盗られた。死にます。」という内容の頻回な電話（遺書も書いている。）
- ・兄、息子が心身ともに疲れ、倒れそうになる。本人を入院させて欲しい。
- ・「出口の見えない入院はどうなのかな？もう一度地域で話し合ってください。」（疾患センター医師）
- ・★チームM誕生！：第1回地域ケア個別会議開催：息子さん、兄、医療疾患センターDr.診療所Dr.民生委員、駐在所、サポーター、役場、ケアマネ、包括参加。
- ・ヘルパー、訪問診療、サポーターや民生委員による声かけ、見守り
- ・月1回程度会議、センター方式記入など。週間プランをみんなで共有。

推進員として、自宅で暮らしはもう無理だ、という周囲の不安や揺らぎに寄り添いながら、継続的連携調整を図ることにより

- ・「早く施設に放り込んで！」と言っていた近所の人、「どのように声かけすればいいですか？」と包括に相談に来るようになった。
- ・ケアプランを共有しているので、ヘルパー訪問の時間帯に本人が友人宅を訪れていたとしても、「今、うちに来ているからヘルパーさんが心配しているかもしれないから伝えておいて」と包括に電話をしてくるようになった。
- ・「本人から『お金がないので、今、死にます。』という電話があったけど、話を聞いて、包括の人に言っておきます。という、『ありがとうございます。よろしくお願いします』とって穏やかに電話を切った。」と包括に伝えてくる若い役場職員・・・チームMで支えよう！！



地域ケア個別会議

★個別事例対応に関する推進員活動の流れ②

ケアマネジャー

どうやってデイサービスの利用につなげようか？事業所はどこがいいだろうか？

友人

お茶に行こうと誘い出します。Mさんはお花が好きなので、フラワーアレンジメントをする日に。

もし、お迎えの車に乗らなければ、私が連れて行きます。

本人

犬がいるから出かけられない！

お利口だから、テレビを見て待っててくださいよ。

介護職員



支えあいフォーラムでチームMの取り組みを発表。息子さんも県外から駆けつけ、Mさんへの思いと今の心境を語ってくれた。



フォーラム参加者の声：「すごい」の一言です。認知症の人がひとりで生活するなんて信じられない。私には衝撃的でした。たくさんの人の協力があるとこんな事が出来てしまうんですね？これからも一人でも多くの認知症や家族の人にたくさんの人が関わっていただけたいと思います。私もその一人でありたいものです。

たくさんの皆さんが母のために集まって話し合ってくれたことがとてもうれしかった。

介入できる糸口をみんなで考えました。

活動上の工夫、心がけたこと

揺らぎを支える

- 本人・家族・サポーター・民生委員・医師・ケアマネ・ヘルパー・デイサービス職員・役場職員などの話(不安や出来事、心情)を**聴くことに心がけ、否定せず**にまず受け止めた。
- その中でちょっとしたこと、良かったこと、うまくいったことを拾い、そのことをチームで共有できるように心がけた。そのために**情報を包括に集中**するようにお願いした。(ちょっとしたことや気になったこと、何でもいいので包括にいうてくださいね。)
- そしてケアマネには真っ先に伝え、常に一緒に相談してきた。
- 「これはすごい！」と思われる**極上の対応はみんなて共有**し、対応力向上のヒントとして活かす。
- ヘルパーさん、民生委員さん、サポーターさん(友人)にお願いして「**センター方式D-4シート**」に訪問時の様子を記録してもらった。そうすると、本人の状態の悪いときだけに注目する事が減り、良いときの言葉や表情、出来事など、いきいきとした本人の実態が見えてきた。**記録することにより言語化**でき、より本人の視点を大切にする関わりができるようになってきた。
- 意識的に「**チーム**」という言葉を使い、みんなてMさんに関わっているという意識づけをした。

チームMに推進員が関わったことによる成果

- チームで関わると一人暮らしの認知症の人でも安心してその人らしく暮らせることを住民も専門職も実感。チーム全体が、本人をありのままにとらえ、本人の視点で見つめる温かいまなざしに変化してきた。
- サポーターが核となり、Mさんに関わる姿を見て、当初、否定的だった近所の人もMさんを競って見守り、「私が見よるから、あんたは見守らなくてもええわ！」（嬉しい悲鳴？）ショートステイを利用するときは近所の人にケアマネが伝えておかないと夜、電気がつかないといって大騒ぎになる。それくらいみんながMさんのことを思っている。
- 役場職員も認知症の人への対応の大切さを自覚し、平成28年度には役場職員ほぼ全課全員が認知症サポーター養成講座を受講した。
- 認知症疾患医療センター医師とかかりつけ医(診療所)がうまく連携できた。ADLが自立していても通院に繋がりにくい場合、訪問診療に切り替え、医師も生活環境を把握しながら、診療を行うことは本人も安心し、顔なじみとなりよかった。
- 認知症ケアにおけるヘルパーの役割の重要性をあらためて確認できた。特に一人暮らしの認知症の人の場合、朝のヘルパー訪問は「おはよう。」の声かけで夜の孤独を癒し、食生活をはじめとする規則正しい生活の一日の出発点の要となった。
- チーム結成から3年半が過ぎようとしている。Mさんは今でも穏やかに在宅生活を継続している。被害的な言動はほとんど見られず、やさしいもともとのMさんの姿に戻っている。
- サービス担当者会議でのMさんと息子さんの会話から：本人は顔色よく表情穏やか。よく笑う。
- 息子さんが習字道具を買って持って来てくれた。習字の話、花作りの話、かぼちゃんの話などが弾む。（Mさんは習字や絵画が得意。）息子さんが小さいころ、Mさんに宿題の絵を描いてもらったエピソード。「下手に描いて」と頼んでいたのに先生にばれてしまった話。「うますぎたんやな。」といって本当におかしそうに笑った。息子さんも笑った。
- うつむいて顔を上げる度、息子さんが帰ってきていることに初めて
- 気づいたように「どうしたん？なんで帰ってきてるん？」とうれしそうに繰り返すMさん。



今後の取組みやさらに強化したい点

- 本人視点を大切に本人の声をさまざまな形で地域に伝えることにより、早期診断・早期前向きという考え方が町全体に行き渡ることを目指す。
- 空白の時間をできるだけ短くできるように身近な場所にさまざまな場作りを住民といっしょに作っていく。
- 情報共有・地域と多職種の連携で認知症の人のそのひとらしい生活を創っていけるよう支援する。

- 明日 (tomorrow)ももっと っこり

全国の推進員さんへのメッセージ

❤️ 一つ一つの事例を丁寧に。そこから次が見えてきます。
支えあい伝えあいのネットワークをみんなと一緒に作っていきましょう。





これからもわくわくどきどき

2017/05/06 10:04

ご清聴ありがとうございました。